



☆いつもご支援いただきありがとうございます☆
☆AMDA 兵庫県支部はネパール子ども病院の支援を柱に、2011年度はこんな活動をしました☆

シッダールタ母子専門病院（通称、ネパール子ども病院）の取り組みと今後の動きについて

（特活）AMDA 社会開発機構 ネパール事務所 木下 智

2011年3月よりシッダールタ母子専門病院では、周産期医療サービスの改善を目的とした活動を開始しました。この活動は主に、病棟の増築と医療機材拡充を含めた基盤整備と、病院スタッフの能力強化を軸にしています。事業開始から1年間の病院の動きと、これからの取り組みをご紹介しますと思います。

1. シッダールタ母子専門病院

まず、シッダールタ母子専門病院について簡単にお話しします。

この病院は、ネパール連邦民主共和国ルパンデヒ郡ブトワル市（首都カトマンズより南西約 270Km）に位置します。1998年11月にカトマンズ以外で唯一の、「お母さんと子どものための専門病院」として設立され、現在はAMDAネパール支部によって運営されています。

設立当時のネパールでは、妊産婦・乳幼児死亡が非常に多く（WHOの統計によると、1990年の妊産婦死亡率は10万人中830人。他方、1990年に発表されたUNICEFの統計によると、乳児死亡率は1,000人中97人）、少しでもこの状況改善に寄与したいという日本人とネパール人の医師たちの熱い思いが、この病院設立へと繋がりました。この思いは現在も引き継がれており、少しでも多くのお母さんと子どもの命を守るべく、約150人のネパール人スタッフが病院で日々の業務に励んでいます。また、日本からはAMDA兵庫県支部を始め多くの支援者の方々がこの病院を支えて下さっています。

病院では現在、ひと月あたり約275人のお母さんが出産に臨んでいます。また、ひと月あたり約100人の赤ちゃんが、低体重や仮死、新生児感染症などの理由でNICU（新生児集中治療室）に入院し治療を受けています。

同病院は、NGOが運営する慈善病院として、私立の一般病院よりも安価に値段設定をしている一方、24時間緊急受け入れ態勢を整えるなど質の高いサービスの提供にも努めています。その為、地元の方々からだけでなく、100Km以上離れた遠方から訪れる患者さんもいるほど、ネパールの人々に愛され、頼りにされています。

2. 基盤整備（病棟建設）

より多くの患者さんに対してよりよい医療サービスを提供するため、現在病院では、新しい病棟の建設を進めています。病棟の建設には、日本国外務省の「日本NGO連携無償資金協力」制度から資金を頂戴している他、多くの方々からの浄財を充てさせていただいています。



競争入札による建設業者選定を経て、2011年7月下旬より建設が開始されました。延べ面積2,008.86㎡の2階建ての建物（幅18.19m×奥行65.22m×高さ9.13m）です。新病棟には、陣痛室、分娩室、産褥室、手術室、家族計画カウンセリング室、新生児集中治療室などを備え、妊娠・出産から新生児ケアを総合的に管理できる配慮がされています。



2012年3月中旬の時点では、建物構造部分の約7割が完成しています。建設開始前より、地元の人から「この規模であれば、完成まで最低2年間は必要だろう」と言われていました。これらの言葉とは裏腹に、軽微な修正も重ねながら、順調に建設が進んでいます。



重機による作業が主な日本での施工管理に比べ、ネパールではほとんどの作業が、機械ではなく「人力」により進められます。日本の建設現場では、ショベルカー、コンクリートミキサー車、クレーン車などの重機が見られますが、こちらにあるのは、モルタルミキサー（コンクリートを混ぜる機械）やバイブレーター（コンクリートに振動を与えて、締め固める機械）程度です。基礎工事の根切り作業では、40度を超える暑さの中、屈強なネパール人作業員が、スコップでどンドン穴を掘り進めていました。また、二階部分の鉄筋の組み立て作業では、作業員が鉄筋の束をロープで縛り、地面から人力で引き上げていました。



ネパールでは未だ政情が安定せず、しばしば「バンダ」と呼ばれるストライキが行われます。以前に比べると件数が少なくなりましたが、このバンダが行われると、建設資材の搬入が遅れるだけでなく、作業員の確保が困難になるなど、工事が一時ストップすることもありました。

またネパールでは、海外への労働人口の流出が激しく、建設分野においても同じ状況です。ネパール国内でも、少しでも好待遇な仕事を求め、技術・経験のある作業員は首都カトマンズに集中する傾向にあるようです。その為、地方都市であるブトワル市でこのような大規模な建設工事を行う場合、技術・経験のある作業員を確保するのが非常に難しいのが実情です。このような困難な状況の中で、お世辞にも快適とは言い難い休憩所において寝食を行いながら、日々作業にあたる作業員の働きぶりには大変敬服します。

また、技術のある人材を確保するのが難しい中、建設コンサルタントチームと建設業者の努力によって建設技術にも改善が見られています。2012年7月の完成を、関係者一同、首を長くして待っています。（建設の最新状況はこちらにて紹介しています→<http://www.amda-minds.org/index.php/projects/nepal/scwh/>）

3. スタッフ能力強化 ～「母子にやさしい病院」を目指して～

現在、病院では毎週のように、院長や事務局長をはじめ、各病棟の担当医師、担当看護師らが集まって会議を開催しています。議題は、「わたしたちが目指す母子にやさしい病院とは？」で、活発な意見が交わされています。



これまでも病院では、「質の高いサービス」を意識して医療サービスの提供を行ってききましたが、「質の高いサービスとは何か」あるいは「母子にやさしいとはどういうことか」が明確ではなく、具体的に目指すべき方向性や目的があいまいな印象を受けました。

病院スタッフに「母子に優しい病院とはなんですか？」と聞くと、ある人は「スタッフと患者の間で信頼関係が築かれること」、また、ある人は「陣痛期の家族の立ち合いを認めること」など、個々人の認識は様々でした。

このような状況を踏まえ、病院として目指すべき「母子にやさしい病院」のコンセプトをスタッフ間の共通認識として確立することが必要でした。そこで、アメリカの団体「Coalition for Improving Maternal Services」が策定している文書をもとに、患者、スタッフへのアンケートや、主要スタッフ間での議論を重ね、現状に沿った形の「母子に優しい病院とは？」という文書が作成されました。今後は、この文書に書かれた事項をもとに、医療サービスの提供が実践されます。ご参考までに、下記の通り、いくつか紹介します。

- お母さんのプライバシーを守った上で、継続した心身のサポートを行うために、最低でも一人の家族、友人などが付き添える十分なスペースを確保します。
- 病院は、安全なお産のために、有資格の助産師を確保します。

- スタッフと患者の間に信頼関係を築きます。
- お母さん達に、産後のケアについて適切な情報を提供します。
- 薬や鎮痛剤に頼らない陣痛の緩和方法について、スタッフに研修を行います。

4. これからの活動

1) 子どもたちに笑顔を！

ネパールではまだまだ、病院は治療を行うための場所で快適さは二の次、と思われることが少なくありません。そんな中シッダールタ母子専門病院では、入院している子どもたちや家族の方たちに少しでも明るい気持ちになってもらおうと、様々な活動に取り組んでいます。

例えば、2010年に引き続き2011年も、ゴールドマン・サックスのコミュニティ・チームワークスに参加した社員の皆様により作成されたタペストリーが、病院に寄贈されました。ご寄贈いただいたタペストリーは色鮮やかな「花」のようで、ぱっと明るくなった院内に、患者さん家族の皆さん、病院のスタッフたちも嬉しそうです。作



成者の想いを受け手に届けるために、タペストリーの横には、寄贈の背景や作成風景の写真も掲げられており、足を止めて眺める人たちは日本からの贈り物に顔をほころばせていました。「子どもの患者のために、プレイルームを併設したいのですが、現在の病院の財政状況などを考えると、子ども達を喜ばせる「花」を添えることができません。その中で、このような継続的な温かいサポートをいただけることに対して心より感謝しています」と病院長も喜んでいるようです。

2) 新生児感染症の減少を目指して

院内における新生児死亡の主要原因として、新生児感染症（敗血症）があります。感染症の原因は、産まれてくるときの衛生環境や分娩後の処置などですが、原因となる菌を特定して適切な抗生物質の投与を行うことで、死亡数を減少させることが可能です。

現在病院では、検査部の能力強化を通じて、この問題に取り組むべく、特別チームが結成されました。チームメンバーは、検査部の臨床検査技師、小児科の医師と看護師たちです。検査部スタッフがより正確な検査を行い、その結果が効率的に医療スタッフと共有され、情報が継続的に管理されていくことで、一人でも多くの赤ちゃんの命を救うことができればと思っています。なお、この取り組みには AMDA 高知クラブからサポートいただいています。

3) 多様なニーズに対応できる病院を目指して！

現在、患者さんからいただく治療費を主な収入として、病院の恒常的経営がされています。近隣の看護学校から実習生を受け入れるなどしてプラスαの収入確保に努めていますが、慈善病院であるがゆえに、限られた収入だけでは「現状維持」はできても、「向上発展」していく事は困難と言わざるを得ない状況です。しかしながら今後、独自の看護学校の併設や、有資格助産師の育成センターの開設を目標に掲げ、少しずつですが歩み始めています。

病院が、これからも変わらず、貧しい人たちにも安価で質の高いサービスを提供し、更に自らの力で発展していけるようにサポートを行っていくのも、日本人として我々ができることの一つであると思っています。

この一年間、病院は着実に一步一步、前進してきました。しかし、病院だけでは解決できない問題が数多く残っています。今後とも日本の皆さまからの温かいサポートをどうぞよろしくお願いいたします。

東日本大震災救援活動

AMDA は石巻市雄勝町支援の一環として、「鍼灸による健康サポートプログラム」を開始します。社会インフラの無くなってしまった被災地で、漁業や瓦礫除去などの復興に携わる人や高齢者に多い腰痛・膝痛・肩痛などを鍼灸によって改善していく医療支援プログラムで、雄勝診療所と連携してやっていきます。4月20日より雄勝地区の5か所に鍼灸師を派遣し、3か月間は無料で、住民のニーズがあれば、4ヶ月目以後は保険診療に切り替えて、プログラムを継続させていく予定です。

また、7月には被災地間交流イベントとして、岩手県大槌町での『淡路牛丸焼きイベント in 大槌』を企画しています。

AMDA 兵庫県支部写真展

今年度初めての写真展を開催しました。兵庫県国際交流協会、MEDINT、篠山ナマステ会の共催を得て約1か月間にわたり、ネパール子ども病院の歴史、現状、子供たちの様子等をパネルや写真にて紹介しました。東日本大震災の救援の様子も掲載しました。1人でも多くの方に我々の活動を知っていただくためにも大変有効だったと思います。この写真展をきっかけにしてAMDA兵庫県支部のパネルや写真を会員の協力によって更新することができました。今後の活用が期待できます。



兵庫県国際交流協会の島田様、小野様ありがとうございました。

＝支部長より＝

いつもAMDA兵庫県支部の活動にご理解、ご協力を頂きありがとうございます。皆様のご支援のお陰で、AMDAネパール子ども病院は設立から14年目を迎え、2012年8月には3つ目の病棟が完成し、ネパールの母子への医療がさらに充実いたします。また、2011年3月11日の発生直後から開始した東日本大震災への支援も、引き続き継続して行う予定です。AMDAの理念である相互扶助の精神でこれからも頑張りますので、引き続きご支援下さいませようどうぞよろしくお願い致します。

＝AMDA 兵庫県支部活動記録【平成23年4月1日～平成24年3月31日】＝

- 4月11日 MEDINT主催 「東日本大震災 医療ボランティア報告会」で講演 (桂木、鈴記、早瀬)
- 5月2日～5月5日 東日本大震災救援活動(岩手県釜石市・大槌町) (桂木、鈴記、早瀬、藤本_Ⓔ)
- 5月7日 AMDA兵庫県支部総会 (講演 小倉、早瀬)
- 5月8日～5月14日 南三陸町志津川診療所支援 (小倉) HuMAからの派遣
- 6月5日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 8月6日 AMDA本部主催 被災学生招待サッカー交流会に参加 (江口)
- 8月14日～8月20日 県立大槌病院仮設病院への医師派遣 (鈴記)
- 9月4日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 9月5日 新規開設の石巻市雄勝診療所の所長として赴任 (小倉)
- 9月18日 ダ・カーポコンサート参加(鎌倉) (江口、小倉)
- 10月27日 兵庫県薬剤師会主催 第4回市民講座・薬と健康フェア「災害と医療」で講演 (鈴記、桂木)
- 11月1日～11月25日 AMDA兵庫県支部写真展 兵庫県国際国際交流協会・MEDINT・篠山なますて会共催
ひょうご国際プラザ交流ギャラリーにて
- 11月3日 神戸市看護大学学祭「東日本大震災の被災地救援活動(医療活動)を通じてー被災地から見えてきたことー」で講演 (鈴記、早瀬)
- 11月8日 淡路市学習小学校で講演 (鈴記)
- 11月12日 AMSAでの講演 (江口)
- 12月4日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 12月6日 南あわじ市小中学校養護部会人権教育研修会で講演 (鈴記)
- 1月17日 西淡志知小学校、防災行事で講演 (鈴記)
- 2月4日、5日 ワン・ワールドフェスティバル参加 (江口、中田、藤本_Ⓔ、中山、鈴記、桂木、早瀬、藤本_Ⓔ)
- 2月9日 明石二見北小学校体育館で講演 (AMDA-MINDS 山上)
- 3月4日 二見ボウルチャリティーボウリング大会
- 3月10日～3月13日 石巻市雄勝診療所ボランティア (鈴記、中田)

＝ネパール支援 ご寄付(敬称略)【平成23年4月1日～平成24年3月31日】＝

マジックマシン清水、小林真也子、中山正紀、山田、桜井智也、菅ファーマシー、MEDINT、石井健二郎・征子、秋田美乃枝、押田芳雄、豊中脳神経外科クリニック、大阪ガスともしびクラブ、ダ・カーポ音楽事務所、神戸市薬剤師会、奇兵隊

＝東北震災支援 ご寄付(敬称略)【平成23年4月1日～平成24年3月31日】＝

奇兵隊、小林真也子、竹内和美、中山正紀

AMDA 兵庫県支部：所在地 〒673-0896 明石市日富美町 5-16 ハリマビル 3階 にじ作業所内

メールアドレス amdahyogo@yahoo.co.jp

定例会 毎月第一土曜日 毎日新聞社神戸支局 3階会議室にて